

ENEOSスーパー耐久シリーズ2022 Powered by Hankook 第2戦 NAPAC 富士 SUPER TEC 24 時間レース

2022年6月3日(金)～6月5日(日)
富士スピードウェイ(静岡県)
入場者数: 6月3日 4,500人
6月4日 16,900人
6月5日 16,700人



トラブルを乗り越え2連勝!
24時間レースでの雪辱を果たす

FREE PRACTICE

平良響、荒川麟、奥住慈英という新たな陣容で臨んだ2022年のスーパー耐久第1戦では、見事優勝を飾りシーズン開幕を飾ったKTMS。迎える第2戦の舞台は、シリーズ最長となる富士SUPER TEC 24時間レース。獲得できるポイントも大きい、KTMSにとっては因縁があるレースだ。2021年、このレースから新車のKTMS GR YARISを投入したが、レースをリードし続けていたものの、まさかの火災によりストップ。レースを失い、これが響きシリーズをも失うことになってしまった。

あれから一年。KTMSはその借りを返すべく、富士に挑んだ。勝敗はもちろん狙いたいが、まずは24時間耐久レースをしっかりと走り抜き

たい。メカニックたちも新たなスーツを身に纏い、気持ちも新たにレースウィークに臨んだ。

週末の公式な走行に先立ち6月1日(水)のスポーツ走行から参加したKTMSは、晴天となった6月2日(木)午前10時20分からの専有走行1回目で、平良からステアリングを握りコースイン。セットアップを進めていった。ただ、開始から20分が過ぎようかというタイミングでクラッシュ車両があり、ガードレールが破損。長い赤旗中断となってしまった。

再開後は荒川、奥住と交代しながら専有走行を締めくくり、荒川がマークした1分55秒023でST-2クラスのトップにつけた。

午後2時50分からスタートした専有走行2



回目では、平良は4周だけ走り、あとは奥住と荒川の習熟に努め、平良がマークした1分53秒746というタイムでここもトップ。夜間走行でもトップタイムをマークし、順調に初日の専有走行を終えた。

6月2日 スーパー耐久 STEL 専有走行 1回目結果

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	225	KTMS GR YARIS	1'55.023
2	743	Honda R&D Challenge FK8	1'56.814
3	6	新菱オート☆夢住まい館☆DXL ☆EVO10	1'56.861
4	13	ENDLESS GR ヤリス	1'57.501
5	7	新菱オート☆DIXCEL ☆EVO10	1'59.284

6月2日 スーパー耐久 STEL 専有走行 2回目結果

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	225	KTMS GR YARIS	1'53.746
2	13	ENDLESS GR ヤリス	1'55.048
3	6	新菱オート☆夢住まい館☆DXL ☆EVO10	1'56.465
4	7	新菱オート☆DIXCEL ☆EVO10	1'56.697
5	59	DAMD MOTUL ED WRX STI	1'58.267

QUALIFY

富士 24 時間の走行 2 日目は、6 月 3 日（金）に公式予選が行われるのみ。24 時間レースということもあり予選順位はさほど重要ではないが、それでもなるべく前からスタートするべく、KTMS GR YARIS は午後 0 時 15 分からスタートした A ドライバー予選に臨んでいった。

まず A ドライバー予選に臨んだ平良は、3 周目に 1 分 53 秒 844 というタイムをマーク。ST-2 クラスのトップにつける。しかしライバ

ルたちとのタイム差はほとんどなく、B ドライバー予選では荒川が 1 分 53 秒 451 をマークするものの、合算では ST-2 クラスの 3 番手という結果となった。

悪い結果ではなく、大事なのは長丁場の決勝レース。C ドライバー予選では突然の強雨もあつたが、奥住が 2 分 07 秒 035 をマークしクラストップにつけ、決勝を見すえた作業を進めていきつつ、レースに備えることになった。



6月3日 スーパー耐久 A+Bドライバー予選正式結果

Pos.	No.	Car Name	Total Time
1	6	新菱オート☆夢住まい館☆DXL ☆EVO10	3'46.122
2	13	ENDLESS GR ヤリス	3'46.519
3	225	KTMS GR YARIS	3'47.295
4	7	新菱オート☆DIXCEL ☆EVO10	3'47.688
5	743	Honda R&D Challenge FK8	3'51.249

6月3日 スーパー耐久 公式予選 Cドライバー予選正式結果

Pos.	No.	Car Name	Time
1	225	KTMS GR YARIS	2'07.035
2	7	新菱オート☆DIXCEL ☆EVO10	2'07.088
3	6	新菱オート☆夢住まい館☆DXL ☆EVO10	2'08.060
4	13	ENDLESS GR ヤリス	2'09.146
5	59	DAMD MOTUL ED WRX STI	2'09.898

RACE



迎えた 6 月 4 日（土）の決勝日。16,900 人ものファンが詰めかけるなか、午後 3 時にいよいよ決勝レースのスタートが切られた。長い 24 時間レースの始まりだ。今回、たった 3 人でレースに挑む KTMS GR YARIS は荒川、奥住、平良の順でドライブ。3 時間ずつを走るスケジュールを組んだ。

そんななか 1 周目、スタートドライバーを務めた荒川がポジションを落としている。コカ・コーラ・コーナーでコースオフしたためだ。幸いにもダメージはなく、前を行く集団を追っていく。24 時間レースらしく淡々と走っていった荒川は、まずは開始から 1 時間 23 分で一度ピットへ。ふたたびコースに入っていく。

しかしスタートから 2 時間半が近づこうかという頃、荒川は突如加速しない症状を感じる。エキゾーストからは炎が出ている。一度ピット入口でオフィシャルに確認してもらった後、なんとかピットまで帰り着きガレージへ。診断機

などを使いながら、KTMS のクルーたちは急いでトラブルを特定する。原因は、インタークーラーのホースが抜けていたというもの。急いで修復し、KTMS GR YARIS を送り出した。ただ、ピットイン時間は 22 分ほど。これで上位とは 10 周ほどの差がついてしまった。

KTMS GR YARIS は奥住がステアリングを握りふたたびコースイン。チームはそこから作戦を切り替え、ひとりが引っ張れるだけ引っ張る作戦を採っていく。ふだんフォーミュラで戦っている若手たちにとっては気の遠くなるような長いスティントを続けていくが、ペースも悪くなく、KTMS GR YARIS はリヤタイヤの保ちが良くピット時間も短縮でき、少しずつ順位もアップ。暗くなりナイトセッションとなり、午後 9 時には平良に交代。午後 11 時には荒川、さらに夜も 3 人が交代しながらドライブを続けていったが、トップには第 1 戦でも優勝を争った #13 GR YARIS が走っている。

ただそんななか、夜が明けた午前 8 時 26 分ごろ、#13 GR YARIS にもトラブルが起き、24 分間のタイムロスを強いられる。これで平良がドライブ中だった KTMS GR YARIS がトップに立つことに成功した。

序盤の大きな遅れを取り戻した KTMS GR YARIS は、2 周ほどのギャップを保ちながらチェッカーへ向け走行を続けていく。荒川、奥住と交代し、午後 0 時 18 分には最後のピット

イン。平良にアンカーを託す。ただ刻一刻と午後 3 時のチェッカーが近づくなか、平良からはエンジンパワーが失われていくような症状の無線が飛び込んだ。

シリーズを考えれば、リタイアだけは御法度。ピットからは一度ルーティンのタイミングでチェックをすべきでは……と声をかけたが、平良は「いや。このままいきます！」と返答があった。ただひとり、KTMS GR YARIS を 1 年間半乗り続けて、昨年の悔しさも知っている平良からのリクエストに、ピットも了承。ラップダウンは落ちたが、ついに午後 3 時、KTMS GR YARIS は栄光のチェッカーを受けた。

真っ黒に煤けた KTMS GR YARIS を前に、チーム全員が悲嘆に暮れた 2021 年の富士から 1 年。チーム丸となったの勝利にチームは沸きつつ、忘れ物を取り戻したようなホッとした表情を浮かべ、食事も摂らず平良の走りを見ていたせいか、空腹を満たしはじめた。



DRIVER'S VOICE



平良 響 HIBIKI TAIRA

「昨年あんなかたちで 24 時間レースを失い、今年は絶対にリベンジしようと、僕もチームの皆さんも賭けていたレースでした。こうして優勝できて、しかも大逆転で勝つことができ、本当に嬉しいです。序盤にトラブルもあり、途中ライバルと 10 周差がついてしまい『これは届かないかな』という気持ちにもなりましたが、チームの皆さんもまったく諦めていなくて、よりドライバー 3 人も『かつために頑張ろう』という気持ちになりました。こうして優勝できて、本っ当に良かったです！ 応援いただきありがとうございました」



荒川 麟 RIN ARAKAWA

「1 周目にはコカ・コーラ・コーナーでコースアウトしてしまいましたが、これは完全に僕のミスで、さらにクラス最後尾まで落ちたところでトラブルと、一時はどうなることかと思いました。しかしチームの皆さんが前向きに頑張ろうとってくださいましたし、自分もその後はしっかりと頑張ることができ、最終的にチームの皆さんとともに優勝することができて本当に良かったです。自分にとっても初めての 24 時間レースで、9 時間ドライブしたのですが、達成感がすごいです（笑）。これからも頑張っていきたいと思います」



奥住 慈英 JIEI OKUZUMI

「僕自身は以前からスーパー耐久を見ていたんです。ただ免許を取るまで出場ができず、今回が初めての 24 時間でしたが、加わったチームが昨年いろいろなことがあったこともよく分かっています。序盤トラブルがありましたが、チームの皆さんが絶対になんとかするという気持ちを示してくださいましたし、決してペースが良いわけではありませんでしたが、ドライバーとして安全に、何も起こさず走ることも実力と言われ、それに徹することができましたし、チームの皆さんにも支えていただきました。こうして勝つことができたのは、チームの総合力の勝利だと思っています」



6月4～5日 スーパー耐久 第2戦 決勝レース結果

Pos.	No.	Car Name	Laps	Total Time	Gap
1	225	KTMS GR YARIS	679	24:01'52.239	
2	13	ENDLESS GR ヤリス	678	24:03'24.339	1Lap
3	59	DAMD MOTUL ED WRX STI	670	24:03'01.373	9Laps
4	743	Honda R&D Challenge FK8	661	24:03'23.000	18Laps
5	6	新菱オート☆夢住まい館☆DXL ☆EVO10	634	24:02'16.661	45Laps